

未来のために

海や川、水道の水、私たちは水に囲まれた生活を送っています。

日本は世界の中でも水道の整備が進み、綺麗な水を使うことができます。

一見すると、豊かで水に困ることなどないかのようです。

しかし、水は人間の生活になくてはならないもので世界では水を巡る対立が起きています。

東北アフリカでは水不足や、川や湖を使用する権利を巡り対立が深まり、紛争の火種となっています。

また中東やイエメン、イラクとシリアといった地域も紛争に発展している。

水を巡る紛争の原因と挙げられているのが気候変動により干ばつで水が手に入らないこと。

戦争により水源を破壊され市民に水が届かないようにされること。

元々、水の整備がまだされていないことにより水が手に入るまでに苦勞している地域の人々もいます。

このような地域に住む人々は「明日は蛇口をひねっても水が出ないのかもしれない」

「戦わないと水は手に入らない」など私たちの生活からは想像しにくいものである。

日本は島国で海に囲まれ、自然の水循環がうまくできているので

水資源が豊富にあるように見えるそうです。

日本の水の多くは雪解け水や雨水が約十五から二十年かけて地面にしみこみ、

地下水としてたまったものでまかなっていることから安定した供給ができています。

水不足の一番の原因となる気候変動が起こっても

すぐに影響が出ることはないようにできているそうです。

環境面、システム面ともに恵まれていることから

水に困る生活をしたことがないのでしょう。

ただ、気候変動だと言わざるをえない日が増えていることは

私たちも実感しています。

雪が降らない、台風が来ない、雨が降らないなど、

一見日々の生活がスムーズに進み、よさそうに思われる事も

これからの未来の水を蓄えていることを考えると、

恵みの水であることは間違いないでしょう。

地域の水の九十八%が海水、二%が淡水です。

淡水の大部分は南極、北極の氷山であり、人間などの陸上生物が今すぐに利用できる水は

全体の二%にも満たないと言われています。

豊富にあり、困ることのないもののように見えることも限りある資源であること。

自然の恵みの上に成り立っていること。水だけを大切にすることはなく、

気候変動の原因となるような人間の行動を改めること。

私たちが目を向けなければならないことが見えてきます。

私にとって水は生活になくてはならないもののように、

世界の人々も同様です。

水で紛争を防ぐには、全世界で協力し

安全な水の供給体勢を整えることへの取り組みが大切だと思います。

綺麗で安全な水を飲むには、

地球を汚さないという地道な心掛けから始まるのかもしれませんが。



駿台甲府中学校 二年

絵

青柳 蒼
佐藤 輝美